

※2003年5月改訂（第3版）

※2002年1月改訂

日本標準商品分類番号

8 7 4 4 1 5

抗ヒスタミン剤

ハイスタミン[®]注 *Hy-stamin[®]*

〈塩酸ジフェニルピラリン製剤〉

〔貯 法〕 室温保存

〔使用期限〕 外箱又はラベルに表示の使用期限内に使用すること。

承認番号	玉葉-7092
薬価収載	1959年3月
販売開始	1958年8月
再評価結果	1975年12月

※【禁 忌】（次の患者には投与しないこと）

※(1)本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

(2)緑内障の患者

〔抗コリン作用により眼圧を上昇させるおそれがある。〕

(3)前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者

〔抗コリン作用により排尿困難、尿閉等があらわれ
るおそれがある。〕

※【組成・性状】

本剤は、下記の成分を含有する無色澄明な注射剤である。

		1 管 (1 mL) 中の分量
有効成分	塩酸ジフェニルピラリン	2mg
添 加 物	等張化剤	適量
性 状	本剤は、無色澄明の液で、ワンポイントカットの 無色アンプルに充填されている。	
pH	5.5～7.0	
浸透圧比	約 1 (生理食塩液に対する比)	

【効能・効果】

皮膚疾患に伴う痒痒(湿疹・皮膚炎、皮膚痒痒症、小児
ストロフルス、薬疹、中毒疹)、
じん麻疹、アレルギー性鼻炎、
感冒等上気道炎に伴うくしゃみ・鼻汁・咳嗽

【用法・用量】

通常成人1回1～2管(塩酸ジフェニルピラリンとし
て2～4mg)を1日1～2回皮下又は筋肉内注射する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

※【使用上の注意】

1.重要な基本的注意

眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には
自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させ
ないように十分注意すること。

2.相互作用

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
中枢神経抑制剤 バルビツール 酸誘導体、 フェノチアジン 誘導体等 アルコール	相互に作用を増強する ことがあるので、併用 する場合は減量するな ど慎重に投与すること。	本剤の中枢抑制作用 により作用が増強さ れる。
モノアミン酸 化酵素阻害剤		本剤の解毒機構に干 渉し作用を遷延化し 増強する。

3.副 作 用

本剤の皮下注の総症例249例中、11例（4.42%）の副
作用が報告されている。（再評価結果時）

※(1)重大な副作用（頻度不明）

ショック、アナフィラキシー様症状 ショック（意
識消失、血圧低下等）、アナフィラキシー様症状
（発汗、嘔吐、顔面蒼白、蕁麻疹等）があらわれ
ることがあるので、観察を十分に行い、異常が
認められた場合には、投与を中止し、適切な処
置を行うこと。

(2)その他の副作用

	0.1～5 %未満	頻度不明
過敏症 ^注		発疹
泌尿器		排尿困難
精神 神経系	眠気、頭痛	めまい、倦怠感、神経 過敏
消化器		口渇、悪心・嘔吐、下 痢、便秘
呼吸器		喀痰喀出困難

注) このような場合には投与を中止すること。

4.高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量
するなど注意すること。

5.妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、投与
しないことが望ましい。

〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕

6.適用上の注意

(1)筋肉内注射時

筋肉内に投与する場合は、組織・神経などへの影
響を避けるため、下記の点に注意すること。

1)同一部位への反復注射は避けること。

なお、新生児、低出生体重児、乳児、小児には特
に注意すること。

2)神経走行部位を避けるよう注意すること。

3)注射針を刺入したとき、激痛を訴えたり血液の
逆流を見た場合には、直ちに針を抜き、部位を
かえて注射すること。

※(2)アンプルカット時

本品はワンポイントカットアンプルであるが、ア
ンプルのカット部分をエタノール綿等で清拭して
からカットすることが望ましい。

【臨床成績】

臨床効果

輸血後のじん麻疹に本剤を皮下又は筋肉内投与した結果、
本剤の有用性が認められている。

(①)

(裏面につづく)

【薬効薬理】

抗ヒスタミン作用及び抗アセチルコリン作用

本薬は、モルモット摘出腸管を用いた実験でクロルフェニラミンと比べ、ほぼ同程度の抗ヒスタミン作用と50～100倍強い抗アセチルコリン作用を示す。(2)

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：塩酸ジフェニルピラリン

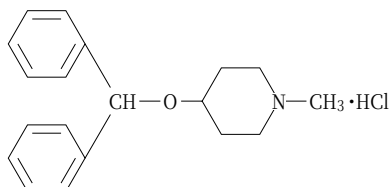
(Diphenylpyraline Hydrochloride)

化学名：4-(diphenylmethoxy)-1-methylpiperidine hydrochloride

分子式： $C_{19}H_{23}NO \cdot HCl$

分子量：317.85

構造式：



物理化学的性状：

塩酸ジフェニルピラリンは白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはない。本品はメタノール又は氷酢酸に極めて溶けやすく、水、エタノール又はクロロホルムに溶けやすく、無水酢酸にやや溶けにくく、エーテルにほとんど溶けない。

融点：204～207℃

【包装】

ハイスタミン注(1mL)50管

【主要文献】

文献請求番号

- ① 加藤 出ら：臨床外科, **14**, 969 (1959) HS-0020
② 平井義雄ら：皮膚と泌尿, **21**, 566 (1959) HS-0003

【文献請求先】

エーザイ株式会社 臨床研究センター FAX 03(3811)2710
〒112-8088 東京都文京区小石川 5-5-5

【商品情報お問い合わせ先】

エーザイ株式会社 お客様ホットライン室 ☎0120(419)497



SU 31774-6

エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

CODE DI-T-HS205